

名前： 森田宏子

略歴： 1979年から2年間 UNDP ハイチ事務所に JPO として勤務し、UNIDO, ILO, UNCTAD のプロジェクトなどを担当。その後 1982年からニューヨーク国連事務局に移り 10年間 開発のための科学技術センター（UN Centre for Science and Technology for Development）に勤務し、開発のための科学技術政府間委員会（Intergovernmental Committee on Science and Technology for Development）の交渉サポートを務めながら、その諮問委員会（Advisory Committee on Science and Technology for Development）の書記を 8年ほど務める。他にネパール、タイでのプロジェクト・リーダーを任される。

その後経済社会局（DESA）の持続可能な開発部に移り、毎年開催される持続可能な開発委員会の事務方及び首脳レベルの国連国際会議（World Summit on Sustainable Development, Johannesburg, 2002; Rio+20 Conference on Sustainable Development, Rio de Janeiro, 2012; Third Conference on Small Island Developing Countries, Samoa 2014）及びそれらの準備会議の交渉サポートや文書作成に関わり、Learning Centre と呼ばれる様々な専門家を講演者として招き、会議参加者のための学びの機会を与えるプログラムの総括を務めた。会議サポートに関連して 1993-2001 は地域協力、教育、科学のテーマを担当し、国連地域委員会や地域開発銀行、地域政府間機構、UNESCO, UNIDO など専門機関との連携を図った。

2001-2008 は同じ部署の国家情報分析課長として毎年持続可能な開発委員会に各国から提出された報告書のまとめや分析をするチームの監視を務めた。2008-2009 は国連が編集している専門誌 *Natural Resources Forum* の編集長を務めた。

2009年には持続可能な開発部・部長室長として新任部長の機構改革の補助をし、その年の後半から 2015年いっぱい小島諸国課長を務めた。サモア会議の準備・企画・サポートのほか 2014年の小島諸国国際年の企画・実施のため Inter-agency Committee の議長として他の様々な国連機関との協力・コーディネーションを推進しながらホームページの立ち上げ、小島諸国の世界遺産写真展、ポスター・コンテストやアート、音楽イベントを実施した。

定年後は国際基督教大学で 2019年に立ち上げた外交・国際公務員養成プログラムのアドバイザーを創立から務めつつ、同大学及び上智大学で国連と SDGs の大学院コースの非常勤を務め、ICU の国連研修を実施。外務省委託の講師の 1人として JPO 研修にも関わり、国際開発研究者協会（SRID）の会員として国際開発に携わる女性のためのフォーラムを立ち上げ、女性同士の交流や懇談会の場を設けている。

その他コメント： 国連本部勤務中、広報局の依頼講師を 20年ほど務め、本部を訪問する主に日本の大学のグループに講演をした。年間を通じてインターンや JPO を雇用し指導した。国連新人職員のメンターも務め、国連人事雇用・昇進委員会のメンバー、国連本部契約役員会のメンバーも務めた。2007年には国連邦人職員会会長。仕事以外の著書に国連ワーキング・マザーの経験を綴った「わたしと仕事、どっちが大事なの？」（文藝春秋、2017）がある。